



2015年7月22日放送

## 印象に残る症例①

済生会山形済生病院 リハビリテーション科 **伊藤 友一**

心に残った症例として私がもっとも多く処方している牛車腎気丸の症例を紹介します。超高齢化社会を迎え、腰下肢機能低下のある高齢の方に推奨できる処方です。

89歳 男性 主訴は、右下肢痛としびれです。

仕事は、無職ですが以前は農家をしていました。10日前に雪囲いをしてから右下肢痛が出現し、近くの診療所を受診し治療を受けましたが、改善がなく診療所から当院へ紹介となりました。

既往歴として25年前に胆嚢摘出術を受けた以外にありません。定期的に内服している薬もありません。

身長150cm、体重50kg Body Mass Index (BMI) は、22.2でいわゆる痩せ型です。

右下肢痛のため歩行困難となり車椅子に乗車して受診されました。下肢痛とともに下肢の冷えを伴っておりました。これまで大病なく長生きされた外来でよくみる痩せ型のおじいさんです。

腰椎の単純レントゲン写真では、軽度変性側弯と椎間板腔の狭小化所見がみられます。同じような下肢痛をきたす慢性閉塞性動脈硬化症を鑑別するために施行した足関節上腕血圧比 (ABI) 検査は正常範囲で、血管性病変は否定されました。

腰部脊柱管狭窄症の神経根型による右坐骨神経痛と診断して治療を開始しました。高齢で下肢の冷えもあるためツムラ牛車腎気丸7.5gと修治ブシ末1.2gを1日分3で投与しまし

た。

経過です。1ヶ月半の内服で大分痛みが良くなり、杖歩行も可能となり投薬を継続しました。3ヶ月程度で症状は、落ち着きました。

その後も本人の希望にて3年半内服継続しております。現在、修治ブシ末は、0.9gに減量しました。初診時、車椅子で来院していましたが、現在は、1本杖で自力歩行可能です。家族からは、以前より元気になったと言われていています。本人は、その後も内服継続を希望しています。

牛車腎気丸は、もともと加齢で腰下肢の機能が低下する“腎気が衰えてくる”のを補う薬です。温熱性の薬物を用いて裏寒を改善する方剤です。八味地黄丸に牛膝と車前子を加えた薬方で、特に下肢の痺れやむくみがある場合に有効です。

適応として腰痛、下肢痛の他に排尿困難、頻尿、老人のかすりみ目があります。この症例は、89歳と高齢で下半身機能の低下はみられます。痩せ型で高齢の方で比較的胃腸が丈夫なこのような症例には有効です。地黄が含まれているため胃腸の弱い方には注意する必要があります。

薬理作用として水晶体混濁に対する作用 神経伝導速度に対する作用 抗侵害受容作用 血流量増加作用などがあります。

疼痛緩和作用機序として $\kappa$ オピオイド受容体の刺激による中枢鎮痛作用と一酸化窒素(NO)産生増加を介した末梢性鎮痛作用が報告されています。

最近、動物実験でTNF- $\alpha$ の発現を抑制して神経障害性疼痛を軽減させるとの報告もあります。

牛車腎気丸には、もともとブシ末が含まれていますが、鎮痛効果は不十分なので鎮痛作用を増強するために修治ブシ末の併用を勧めます。ブシ末には、鎮痛作用の他に温熱作用もあり冷えの症状にも効果が見られます。

ツムラのブシ末は、8年ほど前に新しくなりました。目安として従来の1/3程度の量で使用します。高齢者には、初めに1日0.6から1.2gぐらいの量を分2あるいは分3で投与しています。

ブシ末の副作用としてまれに、のぼせ、食欲不振、下痢、便秘、発疹などがみられる場合がありますが、投薬中止や減量で改善する場合はほとんどです。

最近、動物実験でブシ末には痛みが慢性化するのを防ぐ作用があることが報告され注目されています。

牛車腎気丸は、腰椎疾患に伴う下肢痛やしびれに有効ですが、糖尿病性神経障害に起因する痺れにも臨床応用されます。また、抗癌剤の副作用である末梢神経障害にも有用との報告もあります。さらに排尿反射の抑制作用やC線維の活動抑制などによる尿意および切迫感の抑制効果も報告されており泌尿器科領域でも使用されております。

糖尿病性神経障害では、高血糖で起きるアルドース還元酵素活性を阻害する作用や血管

拡張作用、抗凝固作用で末梢循環を改善させ皮膚温を上昇させる作用も報告されています。

最近、動物実験で加齢により筋肉が衰えるサルコペニアを防ぐ作用が認められアンチエイジングの観点からも注目されています。

臨床的に牛車腎気丸を長期に服用した場合の効果については、ほとんど報告がありません。涉猟しえたものは、糖尿病患者への牛車腎気丸を5年間投与し糖尿病の合併症が減ったかどうかの報告のみです。私は、最近、自験例で補腎剤の腰下肢痛に対する長期投与の有効性と安全性について報告しました。もともと補腎剤が適応になる高齢者では、疼痛再燃予防とともに体調管理やアンチエイジングの視点からも長期投与が推奨されるかもしれません。その代表例を紹介いたします。

73歳 男性 両下肢痛としびれを訴え受診しました。

既往歴として高血圧症。高脂血症があり西洋薬を内服中です。

身長 156cm、体重 64kg BMI 26.2 と軽度肥満がみられます。

腰椎 MRI 検査にて多椎間に脊柱管狭窄所見がみられます。腰部脊柱管狭窄症の診断でツムラ牛車腎気丸 7.5g と古い修治ブシ末 3.0g を1日分3で投与開始しました。徐々に疼痛が改善しました。途中、修治ブシ末を新しくなった修治ブシ末 1.5g に変更しております。現在、ブシ末を 0.9g へ減量して内服継続中です。

初診時、奥さんに付き添われて来院しましたが、現在、1人で病院へ来院可能です。逆に奥さんの具合が悪くなってしまったとのことでした。歩行もスムーズで以前より元気になったということです。途中、症状が安定しているため1日2回内服に減量しています。83歳になった現在も本人の希望で内服を継続しております。

最後に牛車腎気丸投与の診断ポイントをあげました。下半身の機能低下、足腰の冷え、排尿障害、浮腫傾向がみられたら投与を検討してみてください。